

同和問題（道徳）学習指導案

平成2年 6月21日 第5校時

2年C組 男子19名 女子18名 計 37名

指導者 仁 木 真 之

(1) 主 題 人間らしく生きる （資料-夕焼けが美しい、出典「にんげん」）

(2) 主題設定の理由

2年生になって2ヵ月が過ぎた。新しいクラスにもなじんだように見える。遠足があり、学級対抗の校内陸上大会があった。学級のシンボルとしての学級旗には「助け合い、支えあう、心は一つ」の学級目標が示されている。一人一人をみつめ、一人一人の思いを大事にした学級でありたいとの実践であった。また、学年通信「ねんりん」によって互いの考えや感覚を知り、自己の思いを語るなかから学級目標に迫り、また家庭との連携をはかり多くの人の支えによって生きていく自分であることを自覚するなかから人としてのやさしさや自己に対する厳しさを身につけて欲しいと考えてきた。

同時に多くの同僚に支えられながら共に同和問題学習にも取り組んできた。「渋染一揆」の学習では、連帯して差別に向かって立ち上がることの意味と人間の強さを学び、また、2年生全体で取り組む同和問題学習の意味もつかめたと思う。映画「道」の鑑賞、同和問題校内意見発表会への参加と、生徒の意識は今変わりつつあるように思う。しかしなお多くの問題点を抱えたクラスであり、たとえば、数人の男子の軽はずみな発言によって傷つき、そのやりきれなさが「あゆみ」に表れるということもあった。男子の一部は純真でかわいいところがあるものの、その言動に幼稚性が残り軽率な発言によってときに友人を傷つけることもある。差別事象や、個々の事例については、正しい判断が付き、言葉としては理解しているものの、それらが互いに結び付いて心情的理解にまではいたってなく、当然行動までは結び付いていかない。自分に対する批判にたいしては敏感であるがそれがひるがえって他人に対する思いやりや人としての深みにつながっていったという点がある。

資料「夕焼けが美しい」は部落差別によって文字を奪われた北代さんの手紙である。しかしこの手紙を読んだだけではそこまでは理解できない。それよりも文字を知らぬことの現象的な不便さが現在の生徒たちの生活との比較の上ででてくるはずである。まずそこを掴ませる。さらに、字を知らないということの意味をさらに深く考えさせていくことによって、文字を奪われたということが単なる生活上の不便さのみならず、人間としての生き方まで否定されたものであることを心情的にも十分掴ませたいと思う。字を知ることによって思想をつちかい感性を取り戻すことができるということを「夕日を見てもあまり美しいとは思わなかったけど、本当に美しいと思うようになりました。」という言葉から掴ませたい。今の2Cには実効的ではないがそういった面での心情的理解が不可欠であるように思う。その上で「バカという字をバカと読みたい」という識字運動の原点に触れていきたい。部落差別の歴史は悲惨な場合が多く扱いによっては「またか」式の感想を持ちやすい。しかしこの資料は悲惨な歴史にもかかわらず明るい展望の持てる資料であり、かつ現在も識字学級という形で継続している大きな問題を含んでいる。学ぶということが中学生としての自分と照らしあわせて考えやすい点もある。

心情的な理解から入り、差別の結果として文字を奪われたことと、文字を取り返す運動が同時に差別に対する戦いであることを掴ませたい。

その意味において、この資料は現在のこのクラスにおいて適したものの一つであると考えられる。差別に抗して生きてきた人生の重みを捕らえたとともに言葉や文字を獲得していくことが人間にとってどんな意味を持つかをかんがえさせ、部落差別解消へ向けて生きていく態度を育てたいと本主題を設定した。

(3) ね ら い 人間として生きていく上で文字の持つ意味をつかみ、失われた文字を獲得していくことが人間としての生きる喜びにつながることを掴ませる。

(4) 視 点 人権と差別

(5) 指導計画

① 常時指導 朝、始業前10分間の指導、「あゆみ」を通じての子供たちとの会話、欠席時の家庭訪問など常に生徒に焦点を当てた指導を心がけてはいるが、思うようにはいっていない。また生徒間において心情面での交流が少ないこともある。その点については学年通信「ねんりん」を通じて生徒相互、教師、父兄の交流をはかり、常にあいての立場を考え互いに支えあう学級集団を作り上げていく。

② 関連的指導 学級会活動…………… 1 時間
自分にとって勉強することの意味について考えさせる。

③ 核心的指導 特活 映画「道をみて」…………… 1 時間
学校行事 部落問題意見発表会…………… 2 時間
道徳 「夕焼けが美しい」…………… 3 時間(本時 時間)

④ 発展としての関連指導 特活「男女の協力」…………… 1 時間
男女が互いにその特質を認めつつ、相手の立場を尊重し協力することによってよりよい学級生活が作り上げられることを実感として捕らえ、「助け合い、支えあう」クラスのあり方を考え実行しようとする雰囲気醸成する。

⑤ 常時指導(発展)
部落差別は、文字と言葉を奪いそれによって人間をおとしめていくことでもあったこと、そんな中での常に明るい展望を持って仲間に支えられながら差別解消に立ち向かっている北代さんのような人が大勢いること、学習することの意味をといなおし部落差別解消に積極的に取り組む生徒を育てていきたい。

(6) 本時の指導

① 目標

「夕焼けが美しい」という北代さんの手紙から文字を獲得することの意味をといなおし、文字を奪うことは人間としての生き方を否定するものであったことを掴ませ、人

としての生き方を取り戻す識字運動は部落開放運動に結び付いていくことを踏まえて、自らはどうかかわるべきかを考えさせたい。

② 展開

	学習活動	主な発問と期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入	北代さんの手紙を読 んでの感想を発表す る。	○この手紙を読んでどんなこ とを感じたか。 ・へたな字だと思った。 ・一生懸命書いている感じが した。	・初めての感想を大切にし たい。
展開	字さえ学習すること のできなかった生活 について考える。	○北代さんはどうして字を知 らないのか。 ・家庭が貧しかった。 ・家の手伝いに追われて学校へ いけなかった。	・学校にさへいけなかった 生活について考えさせる が、生徒の実感とはかけ 離れたものがある。場 合によっては識字学級 の作文を読む。識字学級 について触れる。
	北代さんが文字を獲 得していった意味に ついて考える。	○「夕焼けが美しい」と感じた のはどうしてだろう。 ・字を知った喜びから。 ・字を知って初めて人間らしい 気持ちになり、自信がついて きたから。 ・世の中が明るく見えだした。 ・生きていくことに喜びを感じ ることができるようになった ・人間として生きていく喜び。 ○みんなにとって字を知ると いうことはどんな意味があ るか。	・この手紙の中でポイント になる言葉である。北代さ んの心境に迫らせ共感的理 単なる喜びでなく人間で あることを取り戻せたとい う気持ちまで掘ませたい。 ・文字を知ることの意味を 考える上でも心情的な共感 が必要なところである。 ・「美しい」という字はほん とに美しい。手に書き、握 りしめて帰る-気持ち。 ・この問いは軽く扱いたい。
		○北代さんにとって字を知る ということとはどんな意味が あるのか。 ・自分を知り深く考えること ができる。 ・恥をかかず楽しく堂々と 生きていくことができる。 ・自信をつけることになる。	・じっくりと考えさせたい。 字を知ることとは人間 としての感性や思想を取り 戻すことであること。 ・奪われた文字を取り戻す ことであり、差別解消につ ながることであることを理 解させたい。

		・人として生きていくことができる。 ・差別と戦うことである。	
		(補助発問) ・70歳になって字を覚えることの意味。 ・「バカ」という字を「バカ」と読みたいという思想について。	・人間としてだれもが持っているものをもって死にたい ・差別を差別として捕らえられない辛さを超えることから始まる。
	北代さんの生きざまについて考える。	○「10年長生きしたい」という言葉についてどう思うか。 ○北代さんはどんな人だろう。 ・10年長生きして今までの苦勞を取り戻したいと思った。 ・もっともつと字を知って人と生きていきたいと思った。 ・苦勞にも負けない強い人。 ・差別と戦い最後まで頑張れる人。 ・明るい思いやりのある人。	・10年長生きしたいという言葉のうらにある、いままでの差別の厳しさに目を向けさせたい。 ・差別解消に向けて決意と明るさも感じさせたいと思う
	この資料が私達に問いかけているものはなにか。	○この資料を勉強してきて学んだことは何か。 ・文字の持つ意味について改めて考えさせられた。 ・部落差別の厳しさと憤りを感じた。識字学級で頑張っている人に頑張って欲しいと思った。 ・勉強できることのありがたさがわかり、頑張ろうと思った。 ・人間の持つ強さやすばらしさを知った。	・文字を奪う部落差別の厳しさと、それでも明るく人間らしく生きようとする人のいることとそのすばらしさを押さえたい。 ・「文字」(藤岡喜美)を読む。

授 業 記 録

T :これから「夕焼けが美しい」について、今まで2時間ぐらいかけて北代さんの思いなんかを個々に考えてきました。今日は、どんなふうな感想を自分は持つ

たか、それを出し合って、人の意見を聞いて自分の考えを深めていくそんな授業にしたいと思います。

(T : 手紙を読む)

T：みんなはこれを初めて読んだとき、誰だったかなあ、長尾だったですか、「きたない字」とか「何？この字！」とか。感じたまま、一番最初に何を感じたか、北代さんの手紙を読んだ感想。

井上：識字学級で字を習っていて、字がきたなかったけど、一生懸命、よかったと思います。今度は漢字も覚えて欲しいと思います。そして、家が貧しくて家の手伝いをして忙しくて学校へいけないのでかわいそうだと思います。学校にいけないというのがおかしいと思いました。

T：おかしいというのはどういうこと？

井上：そこに差別があるような気がしました。

渋谷：僕はこの手紙をよんですごくうれしかったです。それは、僕は字はきたないけど北代さんは努力していたという感じがすごくていました。何事も努力して北代さんようになりたいです。

藤井：まず思ったことは一字一字を一生懸命書いているのが見てすぐわかった。北代さんの手紙は一字一字が書けるという喜びがつまっていると思います。

佐藤：僕もみんなと同じで初めは字はきたないと思ったけど、先生の話とか聞いていたら、北代色さんもよくがんばっているんだなあと思いました。

新宮：第一印象は、パッと見たときは字がきたないと思ったけど、でも読んでいくうちに北代さんどんな気持ちで生きてきたんだろうと思ってかわいそうな気がしました。

林：正直言って、北代さんの手紙の字はきたないと思いました。しかし、一生懸命に書く北代さんの気持ちが浮かぶような気がしました。

長尾：僕はこれを読んで、今も字が読めない人がいるんだなあとびっくりしました。

T：ほかに何か今の感想を聞いて、いまの意見についてつけ加えることないですか。

新宮：さっき、北代さんがどんな気持ちで生きているかというとき、かわいそうといったけど、かわいそうでなしに、なんか…、自分の第一印象はパッと見て字がきたないと思ったけど、読んでいくうちにどんな気持ちで生きてきたんだろうと思って…かわいそうと言ったけど、かわいそうというのはおかしいから訂正します。

T：どうしておかしいんですか？

新宮：可哀想など言うのは同情してあげているんだから…そんなんでなしに…。よりそって考えていくっていうか、自分の気持ちを……（不明）

T：…可哀想と思った人手を挙げてみて…どうしてかな

渋谷：可哀想と思ったのは、今まで71も歳がすぎているのに、字を知らないのはかわいそうと思いました。

T：字を知らないことが可哀想ということですか？井上さんもそうですか？

井上：えーと、私は最初、なんで字を知らないのかと思ったけど、途中で先生がこのことは部落差別に関係があることだといって、自分が想像したんだけど、部落差別だったから字を習いにいけなかったみたいところが可哀想だけれど、もっと……くやしいというか…

T：そのことは少し置いておいて、じゃあ北代さんが「夕焼けが美しい」と感じたのは、どんな気持ち何だろうか。どうしてそう感じたんだろう。

佐藤：北代さんの心は字が書けないということと沈んでいて、夕焼けが美しくみえなくて、今、字が書けるようになってからうつくしくみえるようになったんだと思います。

新宮：夕焼けを見て美しいと感じたのはや
っと人として生きる道をやっとたどれた。
井上：私の意見は2人の考えとはちょっと
違って、字を知ることによって生きるよ
ろこびを知ったような気がする。夕焼けによ
って1日の終わったことを喜び、朝の来る
ことを喜んだと思いました。

T：今新宮が言ってくれたことで、人として
という言葉があつたんですが、それで、北
代さんていうのは、人としての生活ができ
てなかった。北代さんの生活は大体どんな
ものだったと思いますか。今までどうい
う生活で、どうして字を知らなかったのか。
それについて、自分の想像になるんですが
言ってみてください。

井上：家が貧しくて家の手伝いばかりして
いて、それで字を知らなかったのだろう。

佐藤：北代さんはいえがまずしくて、ずっと
差別を受けてきて、貧しくて学校にいけな
かったり、字を教えてくれる人がいなかった
から字を知らなかった。

井上：佐藤君の意見の中によくにていると
ころがあるんだけど、井上君が貧しくて
学校にいけなかったって言ったけど、貧し
くてもちゃんとそれなりに教えてくれる人
がいれば字を知らないことはない、ちゃん
と字を教えてくれる人がいればそれでい
けると思います。

T：家に教えてくれる人がいなかったとい
うことですか。

井上：近くにも。

T：みんなね、家が貧しくて学校へこれな
んだという状態、想像できますか。こんな
文章があります。ちょっと一部だけ読み
ます。（備考、資料の①を読む。）

T：ちょっと、識字学級のことに触れます
が、この文章のなかにでてきている識字学
級はそういう人たちのために字をならうひ
とつの組織ができたわけです。そういった

人、大半が被差別部落の人たち、そういう
人たちが識字学級で学んでおる。この北代
さんもその一人だったわけですね。そうし
て字を習った後、夕焼けを見た感想、そう
いう厳しいなかのあと夕焼けを見た。夕焼
けを美しいと感じたわけですね。さつき3
人発表してくれましたが、続いて自分がこ
う思ったものを発表してください。林田に
も発表してもらいます。

大道：北代さんにとって字を知ったとい
うことはうれしい以上に小さいころから今
まで苦しめられていた字を知らない差別から
解放された気がしました。

林：今までせまくなるしかつた気持ちで字を
書けるようになって北代さんの心の中があ
かるくきれいな気持ちになったため夕焼け
がものすごく美しく感じたと思います。

森川：北代さんの心の中に自分が他人より
劣っているという気持ちがあつたからと思
います。字を覚えて気持ちが前向きになっ
てきたから、あらゆるものを美しいと感じ
ると思います。

渋谷：字を覚えているのが人にとってあたり
まえだけれど、貧しさによって字を奪われ
て70まで字を知らなかったのはただごと
ではない。でも、70になって字を覚えた
ということは人間であることを取戻し極端
にいうと人間であることを忘れていた人が
人間になったということはやっぱりすごい
ことだと思います。だから、心の中で夕日
を美しく見せたと思います。

林田：自分の字と同じくらい光っていると思
います。

T：自分の字と同じくらい輝いている。夕
焼けがね。この字すこしへたですけどそれ
でもそれが夕焼けのように輝いていた。

林田がそういうようなことを書いていたん
ですが、どうしても言わせたくて「惇」い
えよ、といえ「いや、絶対いやわ」とい

たんですがむりやり言ってもらいました。

T：今まで言ってくれた中で大道と渋谷の言ってくれた中にもだいぶ考えないかんことがあったように思うが、渋谷、もう少し詳しく言ってくれませんか。

渋谷：文字を知るということはやっぱりあたりまえのことでそれを知らなかったら生きていくのにも苦勞もするしバカにもされる。だから人間であることを忘れたと思いました。だから、文字を知ったことで、また自分が人間に戻れたということを確認めたということになったと思います。

T：今の意見にたいしてどうですか。字を知らないということを人間としての生活ができておらんというようなこと。字を知らんということは人間としての生活ができておらんという意見についてどう思いますか。はい、佐藤。

佐藤：別に字を知らなくても人間として生きていけると思います。

T：字を知らなくても生きていける。

井上：佐藤君の意見に対抗するんだけどやっぱり私は生きていけたとしてもつらいものがあると思います。

T：つらいものがあるから人間としての生活ができないということですか。考えていきたい。

新宮：井上さんの意見につけ加えるんだけど人間として生きていくのにつらいものがあるということは、他の人は字とか書けて読めて、病院とかいろいろ行っても書けたり読めたりするのにその北代さんとか北代さんみたいに字を知らない人は読めないしつらいなと思うので私も井上さんの意見に賛成です。

T：他に、同じような意見でいいです。

水口：私も井上さんとか新宮さんの意見と同じなんですけど、やっぱり人が苦勞しな

いでいくことに対して北代さんはやっぱりもっと苦勞しなければいけないのでやっぱり一人でもずっとつらいから人間としてはちょっとつらいものがあると思います。

T：佐藤はなんか顔見よったら、そういう意見を言ってくれたようなニコツとしているんですが。言葉知らなくても、読めなくても書けなくても人として生きていけると思う人、手をあげてみてください。ちょっと聞いてみようか。谷口、藤本言ってくれますか。

谷口：僕は字を知らなかったらつらいことはあるけれど、別に字を知らなくても生きていくことは十分にいけると思います。

藤本：えっと、ちょっと字を習ってなくてかわいそうな気もするけど、字を習っていなかったら生きる気持ちがなくなってしまうと思います。

T：あれ？なかつても人間として生きていけるという意見なんでしょう？

藤本：ほなけど、生きる望みがなかつても生きていけると思ったら、何年でも生きていける。

井上：また、反対の意見なんですけど、さっきの意見につけ加えることなんですけど、それは生きていけることはできるかも知れないけど、この人は自分では一生懸命生きていてるんだけど、文中にあったように人に迷惑かけたり、自分が恥ずかしいことはいえないから、生きていけたとしても生きていく以上は字をかけなければと期待していたと思います。

T：はい、あのう、生きていけるということと人らしく生きるということは全然違うわけ。生きていくだけであれば鳥も魚も生きていける。犬や猫でも生きていける。人間として生きていけるということをもう少し考えていきたいと思うんですが、こんなのがあるんです。

T: (備考。資料⑤を読む。)

T: 美しいという字を手の平に書いてそして、それを握り締めて帰る、そういう人がおる。夕焼けを見て自分の字と同じように輝いて美しいと思う人がおる。

T: 生きていくということを考えたんですが、みんなにとって、今のみんなにとって字を習うことはどんな意味があるんですか。これは、簡単にいきたいんですが。

佐藤: 勉強などができないから、字を習っている。

岩下: 人として生きていくために大切なものと思います。

井上: 他人に迷惑をかけないことだと思います。

T: それじゃ、これはここで置いておきます。

T: 字を知らないということ、この北代さんがね、さっきから同じようなことを聞いてきたんですが、北代さんが字を覚えていったことは、北代さんにとってどんな意味があるんですか。ここが一番大切なところと思うんですが。

夕焼けが美しいというのは北代さんの自分の心情的なものと思うんですがここでは意味について考えてください。意見をいってみてください。

岩下: 字を知るということは、自分の生きているという証ができたということだと思います。何故かということ、自分という人間がいたんだなあという証ができたということになるからだと思います。

T: 字を知らなかった北代さんが、字を知を知ったということは人間として一つの証を作ったということ。証というのはごく常識的な言葉でいえば証拠みたいなものですよそういうものをつくるんですよ。

佐藤: 僕が思うには、北代さんにとって字を知るということは狭い世界から、字を

を覚えていくことによってだんだん広い世界にでたということ。これから頑張るとう気持ちが湧いてくると思います。

渋谷: 北代さんは、北代さんにとってかけがえのない宝物になると思います。僕にとって字は何ともおもわない、ただ、きれい、きたないで見分けていたけど、ただ努力してない。

字をみたら北代さんの字はすばらしいと思います。北代さんの字はすごくよかったと思います。だから、僕は北代さんにとって言葉は宝物のような存在だと思いました。

T: 北代さんにとってはたからものような存在にある、自分の人間として生きてきた証を作ること、より広い世界に入っていくこと。もうすこし聞きたいと思います。発表する人がちょっと偏っているみたいですね。

井上: 佐藤君の意見によくにているんだけどいままで字を知らなかったことによって一つのカラをかぶっていたと思うけど字を知ることによって一つの自信となって世の中に挑戦できると思います。

T: あのね、このへんでみんなに考えてもらいたいんですが、北代さんは今まで非常に厳しい生活の中で字を習うことができなかった。「バカという字をバカと読みたい」ですが、北代さんが字を習うということはそういう気持ちだった。バカであれ、アホであれ、それを背中に書かれても分からない。それを、書かれたバカという字をバカと読みたいんだ、と。このことを考えておくということだったんですが、自分の考えをいってみてください。難しいですか。

佐藤: バカという字をバカと読みたいというのは、みんなから嫌われていることばでもいいから、それが読めるようになりたいということだと思います。

林: 僕は、書いた人の気持ちはこの字を知り

たい、字を知りたいという気持ちが表れていると思いました。

渋谷：差別されている言葉に、何もいえない、何もかけない、何も抵抗できない。だから、差別は存在するのだと思います。だからバカと書いた人が、字を知らない人と違った意味でバカと思います。

T：もう一度いつてくれますか。

渋谷：差別されているのにたいしてわからないから、抵抗できない。

T：バカと書かれても、もつとひどいことを書かれても、それが自分を差別している言葉、そのことにさえ気付かない、気づけない。例えばみんな、背中にですよ「こいつはバカである」そんなふうな言葉書かれたら意味が分かるから怒るでしょうところが、書かれた言葉がわからなかったら怒りようがないでしょう。字を知らないということは、自分がバカにされたり差別されてきている状況をどうにもとめようがない。

T：仲間はずれにされておる、こんなふうな行動としてわかるものはまだ抵抗できる。でも、言葉で書かれたものは言葉がわからなければ差別にたいして抵抗できない。

T：だから、この北代さんにとって字を知るということは、あるいは今まで差別のなかで字を知らなかった人が字を知るということは、差別にたいして立ち向かっていつているということになる。

T：そんなことを考えながら、北代さんが70歳になって、もう70を過ぎて字を覚えた、なぜなのか。今までいつてきたことと同じようになるかもわからんが発表してください。

岩下：今までいわれてきた、自分の背中に背負っている重いものを字を覚えるということ……。北代さんの気持ちが分か

ったようにおもいます。

大西：みんなと同じで、字を覚えるともつといろんなことをみたり、聞いたり、書いてりして、（…不明…）みんなに負けないように字を知ったりするといいと思いましたそして、（不明）もつともつと字を覚えて差別にたいして立ち向かうといいと思います。

T：資料 ④ ⑤ を読む。

T：もう、時間もないようだから最後にこの資料を勉強してきて自分はどう思ったか。それを何名かに発表してもらってこの授業を終わりたいと思います。誰か無いですかはいこの3名に、太田と長尾も、はい佐藤佐藤：僕はこの資料を勉強してきて生きる根生と生きる喜びみたいなものを学んだと思っています。そして、北代さんのように何ごとのも負けないような人になっていきたいです。そして僕も北代さんを見習って何か一つのことによって一生懸命になれるようにしていきたいです。

新宮：字を習うことの意味がよく分かりました。ですが、その前に人生の、生き方、道などを深く学べたと思います。

井上：私はこの資料を勉強してきて、勉強の大切さや、それとこのような人をもう少し大切にしたいし、して欲しいと思いましたみんな、みんなと同じ立場で（不明）と思いました。

太田：字を簡単に覚えて（不明）家が貧しくても勉強することの大切さがよく分かりました。北代さんの（不明）

林：この手紙を見て人間の努力することの意味、大切さみたいなものをいつていると思います。

長尾：夕焼けが美しいを勉強してきて学んだことは字をすることの意味です。北代さんを見習っていききたいと思います。

T：今日の授業はこれでおわります。

(1) 事前に生徒に配布したプリントの設問

- ① 北代さんの手紙を読んだときの感想を書きなさい。
- ② なぜ「夕焼けが美しい」と感じたのだろう。
- ③ 字を覚えることの意味について。
 - * みんなにとって字を覚えるというのはどんな意味があるだろう。
 - * 北代さんにとって字を覚えるということはどんな意味があるだろう。
 - ・ なぜ字を知らなかったのか。
 - ・ 字を知ることの意味。
 - * 70歳にもなって字をなろうとする気持ちについて。
- ④ 10年長生きしたいという北代さんの気持ちについて考えてみよう。
- ⑤ 北代さんはどんな人だと思うか。
- ⑥ この資料から学んだことは何か。

(2) 「夕焼けが美しい」の資料を学ぶ中で補強資料として用いたもの。(抜粋)

- ① 今も忘れられないくらしの一つ一つ一借家の4畳半一間の部屋での親子5人くらし、市場で30円盛り、50円盛りの炭、薪でごはんを炊き、水道は共同、お便所は裏の人と一緒に。晩になれば、子供を早く寝かせてまた靴仕事。こんな生活で、読み書きが必要でしょうか。読み書きどころではありません。夫は私が話しかけると「だまってやれ、しゃべってはい、手がおそうなる」といいます。言葉さえいらなくなるのです。私は前、パーマの仕事をしていました。そこでは、かくことはあまりいなかったのですが、話は仕事の一つになります。ところが靴の仕事になったとたん、本当に途端という感じじがしますが、それから、言葉や文字からすっかり離れてしまいました。こういう生活が差別であるとするなら、差別は、私から読み書きや言葉さえ奪ってきたと言っても間違いありません。
- ② それは、いわば「バカという字をバカと読みたい」の思想に始まる。「バカ」とも「アホ」とも、それどころか言葉では言い表せない悪罵を投げつけられてきた部落の婦人たち。しかも、たとえ背中にそれを書かれても読み取ることもできない自分たちである、と自覚することのつらさ。それはなぜなのか、たとえ辛くとも、そのことをみつめ、考えることから、住吉の識字は始まる。
- ③ さらに、識字運動が、新しい文化の創造を目指していることである。「文字を覚えてから、夕焼けが特別美しく見えた」ということがある。それは、文字を奪われていたことが、美しいものを美しいと感じる人間の感性や思想も奪っていたことになる。逆に、文字を奪い返すことは、単に文字を身に付けるだけでなく、人間の思想や感情、つまり人間の文化を、人間そのものを取り戻すことにもなる。

- ④ 「字、習ったら得するんやから来い」の呼びかけに、「何も得するからと違う。人間としてだれもが持っているものを持って死にたいのや」の言葉が返ってきたという。「字を習って何十年のおもしろがとれた」とも言う。

- ⑤ 人間の証である文字と言葉を奪いかえし、人間を抑えつけている「おもしろ」を自らの力ではねのけて、人間を取り戻す運動、それが識字運動である。「美しいという字、なんて美しいんやろ、先生、手のひらに書いてジッとにぎりしめて家に返りましてん」

- ⑥ 文 藤岡喜美
- 文字をしらないことは 生きていく、いみがない。
しきじがつきゅうで 文字をならい
生きるよろこびを知った。
いまは、まるで
ぼんと正月が
いっしょにきたみたい
くもにのり 天へのぼったような この気持ち
町をあるいていても
テレビを見ていても
私から
文字ははなれない

(3) 授業後の生徒の感想

○ 2Cの感想 (「あゆみ」より)

- ・ 今日公開授業をしました。何か僕は途中からみんなが周りで見ていることを忘れていました。だから少しも緊張しませんでした。そしてたくさん手をあげることができました。みんないい意見をいっていました。少し残念だったのは手をあげることができなかった子が半分くらいいたということでした。僕達が悪かったところは次のクラスそのまた次のクラスというふうになおして行って最後のときには完というように頑張っていってみたいです。
- ・ 今日の公開授業のときに少し緊張してしまって手が少ししかあがりませんでした。予定からはずれた方向に質問がでたので迷ったけど、みんないい意見が出ていたのですごいなと思いました。
- ・ 先生、あの「バカという字をバカとよみたい」というところ、もう少し待ってくれたら手をあげていたのに。このときこそ絶対に手をあげようと、もうあげかけだったのに。そういうときに限って先生が話をずらす。
- ・ 僕は勉強して思ったことは北代さんの字は僕の書く字よりも差別に対する力があると思います。僕も北代さんのように各自に何か力があるようになりたいと思った。

○ 他のクラスの生徒の感想（「あゆみ」より）

- ・ 今日のC組の授業で林田君のいった言葉が心に残りました。他の発表もすごくよかったけどその言葉が一番良かったです。暑かったから汗をふきながら見ていました。また、楽しい授業でした。時々笑い声が聞こえるほどでした。とても良かったです。
- ・ 今日C組の授業が体育館でありました。僕達が始めてやって、その次の授業だから、みるのは初めてだからどんな授業をするのか楽しみでした。みんないい意見がたくさんでたと思います。発表している人はたくさん発表しているけど、全員が一回は発表しなかったのが残念だったと思います。
- ・ 今日の2Cは2Bのように緊張感がありませんでした。本当に普通に教室で授業しているようでした。（新宮さんのパフォーマンスがよかった。）自由に手を挙げて、自由な感じで。これはほんとにいいことだと思いました。クラスの中で意見が分かれて、私は、僕はこの意見に反対、賛成といったこともあって、同じクラスでも意見は違うんだとおもいました。自由にいつているのにとってもいい意見がでました。林田君の「夕日が輝いている」新宮さんの「かわいそう」の訂正。私は初め、かわいそうの言葉でピクツときました。「かわいそう」それは同情しているのでは？でも、新宮さんが訂正してくれたときはあーこの人は分かってくれているんだと、とてもうれしかったです。2Cとても良かったです。

（4） 授業者の反省と感想

① 同和問題学習

- この資料によってねらいがどこまで達成できたか考えてみるに、全般的に不十分だったといわざるを得ない。資料そのものと補助資料の扱いの順序も改めて考え直す必要がある。いくつか感じた点をあげると、
 - ・ 現在の生徒たちの生活環境から考えて文字さえ習うことのできない生活を実感として捕らえにくいことがある。信じられないという感想がある。字を知っていてあたりまえという今の子供たちにたいして 字を知った喜びを歌う「夕焼けが美しい」が心情的にどこまで迫れるか、非常に難しい点があり、言葉だけの観念的なものにおわりやすいものを持っている。授業においてもその点を克服できないままに終わったように思う。その点においては、識字学級の実態等についてもう少し時間をとってやるべきかどうか、考えてみたい。
 - ・ 文字を知することは人間としていきることである、ととらえた生徒の発言を、それを取り返すことが、差別に反対していくことにつながるということに結び付けていくことができなかった。差別からさえ阻害されているという状況の把握が不十分であった。
 - ・ 上でも簡単に触れたが、本資料そのものが簡単であるために補足説明や補助資料が必要である。授業では既にあげたような資料を用いたがそれでよかったか。またその授業への位置付けをしっかりと考えておくことが大切である。

- ・ 自分たちの立場に照らしあわせて「字を習う」ということでとっつきやすい資料であるだけに逆に平板的に流れやすい危険性を持っている。最後の生徒の感想を聞いてもそういったことがある。勉強することの大切さはつかめてもそこまでおわっているような気がしてならない。
- ・ この資料によって初めて子供たちは学習することの意味を考えたであろう。疑問さえ感じなかった学習に対する深い見方や意味、字を知ることを自らの権利と考え人としての必要不可欠のものにとらえてくれたならば、さらに次の段階にまで考えさせていきたい。
- ・ 決して満足できる結果ではなかったが、それでもなおこの北代さんの手紙の持つすばらしさや、込められた思いを全て語りつくすような授業をしてみたいと思う。
- ・ 核心的指導の授業としては、この後引き続いて 高知、長浜に端を発した教科書無償への闘いへつなぐべきかどうか。

② 授業形態について

- ・ 公開授業2回目であることから、覚悟もできており、自分なりに授業のあり方を理解できていたようである。しかしながら、相変わらず基本的な点においてまだまだ洗練されていない。内容と同時に形式も追うことには急にはいかない難しい点がある。。姿勢、声、挙手なども不十分であり、当然発表が「話し合い」の形をなしていない。事前に配布したプリントに頼ることが多かった。
 - ・ 授業の中盤において予定していない初問をし「話し合い」の形を誘導してみたが、今後の「訓練」が必要である。しかし、わずかではあっても、大勢の前でその場で自分の考えをまとめ発表できたことは、今後の「訓練」によって話し合いの形を作る見通しが立ったものと考えている。
 - ・ 人の前で自分の意見を発表し、その場で自分の意見をまとめ、人の意見を聞くなかで考えを深めていく。意見が生徒相互でかみあい、内容が深まっていく。そんな授業を目指したいが、道は遠い。それらは、教室での基本的な指導と同時に生徒をはれがましい所に引き出していくことから始まる。教室における指導を充実させていきたい。一方、臆せず大勢の前に引き出していきたいと思っている。
- * 授業というものは何度やっても難しいものである。満足するということがない。公開授業は自分自身の勉強になることが多い。生徒以上に我々自身のためになる。